

NIEコーナーで日常的に新聞を読む生徒



楠隼高校(肝付町)

編集通し社会に興味

地歴公民科の二宮勇貴教諭(32)が担任の2年1組では、興味のある新聞記事などを切り抜いて独自の新聞を作った。新聞の編集を通して、社会の出来事に興味を持つ生徒が増えた。

昨秋、ロングホームルームで実施。3人一組に分かれ、記事や広告を選んで模造紙に再編集し、独自の見出しや意見を書き込んだ。二宮教諭は「生徒が提出する日記に、社会情勢に関する内容が増えた」と手応え

を感じている。全寮制で、携帯電話持ち込みは禁止。全教室と寮の各階に日刊紙2紙、NIEコーナーと図書室に5紙が置かれ、生徒は普段から新聞で情報を得る。2年の伊達優一郎さんは教室でよく友人と一緒に新聞を読むといい、「ニュースを見た時に自分の考えを持てるようになった」と感じている。

実践校初年度。来年度は各紙の批判的な読み比べに取り組み。(片野裕之)

記事について語り合う生徒



名瀬中学校(奄美市)

文章比べ視野広げる

実践2年目は国語の授業だけでなく、土曜授業の朝の時間を「名中タイム」と銘打って新聞を活用した。記事の感想を書いて周囲と見せ合う取り組みを、計7回にわたって実践した。記事に対して自分の意見を持ち、文章化し、他人の文章と読み比べることで視野を広げるのが狙いだ。

県が毎年実施する学習定着度調査では、2年生にうれしい変化が見られた。前年度と比べ、「読むこと」

の分野で正答率が14ポイント上がり、平均誤答率は10・3ポイント下がった。生徒の日記にも、日頃の記事を取り上げた内容が自然と目立つようになったという。

担当の大脇輝希教諭(26)は「1年を通して継続することで確実に力がついている」と手応えを感じている。3年目は社会や数学など、教科の枠を超えた取り組みができないか検討している。

(藤崎優祐)